

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6612083号

(P6612083)

(45) 発行日 令和1年11月27日 (2019. 11. 27)

(24) 登録日 令和1年11月8日 (2019. 11. 8)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 H 7/00 (2006. 01)

A 6 1 H 7/00 3 2 3 T

A 6 1 H 15/00 (2006. 01)

A 6 1 H 15/00 3 5 O G

A 6 1 F 7/03 (2006. 01)

A 6 1 H 15/00 3 5 O F

A 6 1 F 7/08 (2006. 01)

A 6 1 F 7/08 3 3 2 B

A 6 1 F 7/08 3 3 2 R

請求項の数 5 (全 14 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2015-153365 (P2015-153365)

(22) 出願日 平成27年8月3日 (2015. 8. 3)

(65) 公開番号 特開2017-29467 (P2017-29467A)

(43) 公開日 平成29年2月9日 (2017. 2. 9)

審査請求日 平成30年2月20日 (2018. 2. 20)

前置審査

(73) 特許権者 000136491

株式会社フジ医療器

大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号

(74) 代理人 110000844

特許業務法人 クレイア特許事務所

(72) 発明者 吉田 敏久

大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社フジ医療器内

(72) 発明者 安田 裕典

大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社フジ医療器内

(72) 発明者 大出 健太郎

大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号 株式会社フジ医療器内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 椅子式マッサージ機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

座部に起立傾倒可能な背もたれ部を含む椅子式マッサージ機であって、
前記座部の下部の基台部からケーブルを介して配設された1または複数のヒータを有し

、
前記背もたれ部は、背パッドを有し、

前記背パッドの一端は、前記背もたれ部の上部に係止または固定され、

前記背パッドは、分離可能に接合される第1パッド部と第2パッド部とを有し、前記第2パッド部は前記第1パッド部から全部分離可能または一部を残して分離可能であり、

前記第2パッド部を前記第1パッド部から分離した場合に、前記第1パッド部はマッサージ機に座った被施療者の背中に相当する前記背もたれ部の前面側に配置され、前記第2パッド部は被施療者の肩、腕、または腹部を覆うように前記背もたれ部の前面側に配置され、

前記第2パッド部は、上側水平部と、前記上側水平部の両端部から下方へ垂設される腕部とを含み、正面視で逆U字形に形成され、前記第1パッド部は、前記第2パッド部に形成された開口部に配設される形状に形成される、椅子式マッサージ機。

【請求項 2】

前記背パッドは、面状ヒータを内蔵した、請求項1記載の椅子式マッサージ機。

【請求項 3】

前記第1パッド部と第2パッド部の間を分離する分割構造は、係止構造、チャック、面

ファスナー（マジックテープ）のいずれかを含む、請求項 1 または 2 に記載の椅子式マッサージ機。

【請求項 4】

基台部からケーブルを介して配設された 1 または複数のヒータを有し、

前記背パッドは、前記ヒータを収納する収納部または係止する係止部を有する、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の椅子式マッサージ機。

【請求項 5】

前記 1 または複数のヒータの個々の温度を制御する温度制御部をさらに含む、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の椅子式マッサージ機。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、椅子式マッサージ機に関する。

【背景技術】

【0002】

特開 2008-206678 号公報（特許文献 1）には、使用者の体形や好みに応じて、マッサージ部を好適な場所に配設することができる椅子型マッサージ機について開示されている。

【0003】

特開 2008-206678 号公報（特許文献 1）記載の椅子型マッサージ機は、座部と背もたれ部とを有しており、この背もたれ部に第 1 のマッサージ部が設けられた椅子型マッサージ機であって、第 2 のマッサージ部を備えており、且つ前記座部又は背もたれ部に対する位置調節が可能なパッド部を有するものである。

20

【0004】

特開 2000-350758 号公報（特許文献 2）には、着座した時点でいきなりモミ玉が背中中に当接し、不快感を覚えることがあったマッサージ機用の背受けクッションについて開示されている。

【0005】

特開 2000-350758 号公報（特許文献 2）記載のマッサージ機用の背受けクッションは、背中をマッサージするマッサージ動作部が内蔵されたマッサージ機に対して設けられる背受けクッションであって、上記マッサージ動作部の少なくとも左右両脇部でマッサージ動作部より先に使用者の背中を支持可能になったクッション部を具備しているものである。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開 2008-206678 号公報

【特許文献 2】特開 2000-350758 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0007】

特許文献 1 の椅子式マッサージ機は、ファスナーによってエアセルを移動させることができるものである。その結果、体形や好みに応じてマッサージ部を好適な場所に配設させることができる。

【0008】

また、特許文献 2 には、マッサージ機用の背受けクッションを設けることで、施療子がいきなり使用者に接触することはないと記載されている。

【0009】

また、近年、一般的な椅子マッサージ機には、背パッドの上にヒータシートが重ねて配置されている。しかしながら、近年、施療子の力を伝達しやすくするために、背パッドお

50

よびヒータシートの厚みを薄くすることが望まれている。

【0010】

本発明の主な目的は、背パッドおよびヒータを一体化するとともに、厚みを薄くすることができる椅子式マッサージ機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0011】

(1)

一局面に従う椅子式マッサージ機は、座部に起立傾倒可能な背もたれ部を含む椅子式マッサージ機であって、座部の下部の基台部からケーブルを介して独立配設された1または複数のヒータを有するものである。

10

【0012】

この場合、基台部からケーブルを介して独立配設された1または複数のヒータを自由自在に配置することができる。その結果、ユーザの嗜好に合わせてヒータを配置させることができる。

【0013】

(2)

第2の発明にかかる椅子式マッサージ機は、一局面に従う椅子式マッサージ機において、ヒータは、面状ヒータからなり、背もたれ部は、背パッドを有し、背パッドには、面状ヒータを収納可能な収納部を有してもよい。

20

【0014】

この場合、背パッドの収納部に面状ヒータを収納することができる。その結果、面状ヒータを収納部が形成された位置に配置させることができる。

【0015】

(3)

第3の発明にかかる椅子式マッサージ機は、一局面に従う椅子式マッサージ機において、ヒータは、面状ヒータからなり、背もたれ部は、背パッドを有し、背パッドには、面状ヒータに係止可能な係止部を有してもよい。

【0016】

この場合、背パッドの係止部に面状ヒータに係り止めすることができる。例えば、係止部が背パッドの全面に形成されている場合、背パッドの全面のいずれの位置においてもヒータを配置させることができる。その結果、面状ヒータをユーザの嗜好位置に配置させることができる。

30

【0017】

(4)

第4の発明にかかる椅子式マッサージ機は、一局面から第3の発明にかかる椅子式マッサージ機において、1または複数のヒータの個々の温度を制御する温度制御部をさらに含んでもよい。

【0018】

この場合、温度制御部により1または複数のヒータの個々の温度を制御することができる。その結果、ユーザの嗜好に応じた温度調整を行うことができる。

40

【0019】

(5)

他の局面に従う椅子域マッサージ機は、座部に起立傾倒可能な背もたれ部を含む椅子式マッサージ機であって、背もたれ部は、背パッドを有し、背パッドの一端は、背もたれ部の上部に係止または固定されるとともに、背パッドの一部には分割構造が形成されてもよい。

【0020】

この場合、背パッドの一端は、背もたれ部の上部に係止される。また、背パッドの一部には、分割構造が形成される。その結果、分割構造によりヒートパッド作用の部分と、背パッド作用の部分とに分割できる。したがって、背パッドと別にヒートパッドを設ける必

50

要がなく、ユーザの背中から施療子までの距離を減らすことができ、施療子によるマッサージ効果を高めることができる。また、別にヒートパッドを設ける必要がないため、コスト削減も実現することができる。

【0021】

(6)

第6の発明にかかる椅子式マッサージ機は、他の局面に従う椅子式マッサージ機において、背パッドは、面状ヒータを内蔵してもよい。

【0022】

この場合、背パッドは、面状ヒータを内蔵しているので、ヒートパッド作用を、分割構造により、ユーザの嗜好に応じてユーザの背中側または腹部側のいずれか一方、または両方に配置させることができる。

10

【0023】

(7)

第7の発明にかかる椅子式マッサージ機は、他の局面または第6の発明にかかる椅子式マッサージ機において、分割構造の形状は、円形、矩形、楕円形、逆U字型、逆V字型のいずれかで形成されてもよい。

【0024】

この場合、分割構造の形状が、円形、矩形、楕円形、逆U字型、逆V字型のいずれかで構成されるため、ユーザが、円形または楕円形から頭部を出すことができ、ユーザの腹部に背パッドを配置させることができる。

20

【0025】

(8)

第8の発明にかかる椅子式マッサージ機は、他の局面から第7の発明にかかる椅子式マッサージ機において、分割構造は、係止構造、チャック、面ファスナー（マジックテープ）のいずれかを含んでもよい。

【0026】

この場合、分割構造は、係止構造、チャック、面ファスナー（マジックテープ）のいずれかからなるので、容易に分割または合体させることができる。

【0027】

(9)

第9の発明にかかる椅子式マッサージ機は、他の局面から第8の発明にかかる椅子式マッサージ機において、基台部からケーブルを介して独立配設された1または複数のヒータを有し、背パッドは、ヒータを収納する収納部または係止する係止部を有してもよい。

30

【0028】

この場合、背パッドに收容部がある場合には、ヒータを收容部に收容することができ、背パッドに係止部がある場合には、ヒータに係り止めすることができる。

【0029】

(A)

本発明にかかる椅子式マッサージ機は、基台部内部にケーブルを巻き取り可能な巻き取り部を有してもよい。

40

【0030】

この場合、基台部内部に巻き取り部が形成されているので、ケーブルを容易に巻き取ることができる。その結果、ケーブルを容易に收容することができ、ヒータの利用を容易に行うことができる。

【0031】

(B)

本発明にかかる椅子式マッサージ機は、ケーブルが、ケーブル自体の長さを変化可能な形状または素材からなってもよい。

【0032】

この場合、ケーブル自体の長さを変化可能な形状または素材からなるので、ケーブルの

50

絡まりなどを防止することができる。その結果、ケーブルの長さを容易に変化させることができ、ヒータの利用を容易に行うことができる。

【0033】

(C)

本発明にかかる椅子式マッサージ機は、背パッドが、背もたれ部および座部の合計の長さ以上で形成されてもよい。

【0034】

この場合、背パッドは、背もたれ部および座部の合計の長さ以上で形成されるので、ユーザの膝近くまで背パッド部の一部を分割させて被せることができる。その結果、ユーザがスカート等を着ていた場合でも、膝近くまで被せることができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図1】本発明の実施形態による椅子式マッサージ機の構成を示す斜視図である。

【図2】椅子式マッサージ機の背凭れ部から背パッドを取り外した例を示す模式図である。

。

【図3】背パッドの一例を示す模式図である。

【図4】図3の背パッドの利用状態の一例を示す模式図である。

【図5】背パッドの他の例を示す模式図である。

【図6】背パッドの利用例を示す模式図である

【図7】背パッドの他の例を示す模式図である。

20

【図8】背パッドのさらに他の例を示す模式図である。

【図9】背パッドのさらに他の例を示す模式図である。

【図10】図9の背パッドを被施療者に利用した状態の一例を示す模式図である。

【図11】独立ヒータおよびケーブルの一例を示す模式図である。

【図12】独立ヒータおよびケーブルの他の例を示す模式図である。

【図13】独立ヒータおよびケーブルの他の例を示す模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0036】

以下、図面を参照して、本発明の実施形態を詳しく説明する。図中同一又は相当部分には同一符号を付してその説明を繰り返さない。なお、説明をわかりやすくするために、以下で参照する図面においては、構成が簡略化または模式化して示されたり、一部の構成部材が省略されたりしている。また、各図に示された構成部材間の寸法比は、必ずしも実際の寸法比を示すものではない。

30

【0037】

[第1の実施の形態]

[椅子式マッサージ機100]

図1は、本発明の実施形態による椅子式マッサージ機100の構成を示す斜視図である。

。

図1に示すように、本発明の第1の実施形態による椅子式マッサージ機100は、座部200、背凭れ部300、基台部400、腕施療部500、操作部700、独立ヒータ850および脚載部900を備える。

40

【0038】

なお、以下の説明において、図1に示すように、椅子式マッサージ機100においては、座部200に背凭れ部300が形成された側を後側(BACK)と仮定し、後側(BACK)と逆側を前側(FRONT)と仮定し、それぞれ、左側(LEFT)および右側(RIGHT)と、上側(UP)および下側(DOWN)とを仮定する。

【0039】

図1に示すように、椅子式マッサージ機100の背凭れ部300は、被施療者の肩、腰、背中を支持するとともに、前後方向に起倒可能に形成される。また、背凭れ部300には、施療子(一对の施療子)350がガイドレールに沿って上下方向に移動可能に内蔵さ

50

れている。施療子 350 は、揉み、叩き、ローリングなどの多様な施療動作が可能のように、一対の施療子 350 で形成される。

【0040】

図 1 の座部 200 には、1 または複数の反復膨張する膨張袋（エアー施療部）（図示略）が内蔵され、該膨張袋により被施療者の臀部を支持しつつ施療する。また、脚載部 900 は、座部 200 および基台部 400 の前端に軸支され、脚載部 900 自体が回動可能に設けられている。

脚載部 900 においては、1 または複数の反復膨張する膨張袋（図示略）が設けられており、該膨張袋により被施療者の脚を施療する。

【0041】

また、腕施療部 500 は、図 1 の座部 200 の左右両側に立設して設けられる。腕施療部 500 には、1 または複数の反復膨張する膨張袋（図示略）が内蔵され、該膨張袋により被施療者の腕を支持しつつ施療する。

独立ヒータ 850 は、1 または複数設けられ、基台部 400 からケーブル 851 により配置自由に設けられる。独立ヒータ 850 の詳細については、後述する。

【0042】

次に、図 2 は、椅子式マッサージ機 100 の背凭れ部 300 から背パッド 310 を取り外した例を示す模式図であり、図 3 は、背パッド 310 の一例を示す模式図である。

【0043】

図 2 に示すように、背パッド 310 は、背凭れ部 300 の背凭れ材 320 の前面を覆うように設けられる。背パッド 310 の裏面に設けられた係止部 311 が、背凭れ材 320 の上端部の係止部 321 に係り止めされ、取り外し可能に取り付けられる。

なお、図 2 においては、背パッド 310 を取り外した場合に、施療子（一対の施療子）350 が見えるように図示しているが、これは、構造を説明するために記載しているものであり、背パッド 310 と施療子（一対の施療子）350 との間に、布地を配設することが好ましい。特に、当該布地の裏面は、施療子（一対の施療子）350 との接触を考慮して、耐久性が高く、施療子が滑りやすい素材からなることが好ましい。

【0044】

図 3 に示すように、背パッド 310 は、係止部 311、チャック 312、第 1 パッド部 315、および第 2 パッド部 316 を含む。

図 3 に示すように、背パッド 310 の第 1 パッド部 315 および第 2 パッド部 316 は、矩形状のクッション性を有する素材からなる。また、背パッド 310 の第 1 パッド部 315 および第 2 パッド部 316 の少なくとも一方には、ヒータが設けられている。

【0045】

また、第 1 パッド部 315 および第 2 パッド部 316 は、チャック 312 により離合可能に形成されている。

図 3 に示すように、チャック 312 は、逆 U 字形状で形成されている。その結果、第 1 パッド部 315 は、凸形状で形成され、第 2 パッド部 316 は、逆凹形状で形成されている。

【0046】

図 4 は、図 3 の背パッド 310 の利用状態の一例を示す模式図である。

図 4 に示すように、チャック 312 を移動させることにより、第 1 パッド部 315 および第 2 パッド部 316 を全部、または一部を残して分離させることができる。

その結果、第 1 パッド部 315 は、被施療者の背中側に配置させることができ、第 2 パッド部 316 は、被施療者の前側、すなわち肩、腕、腹部側に配置させることができる。

その結果、背パッド 310 の施療子 350 に相当する部分においては、背パッド 310 の第 1 パッド部 315 が配置され、被施療者の肩、腕、腹部側を背パッド 310 の第 2 パッド 316 により覆うことができる。

【0047】

（背パッド 310 の他の例）

10

20

30

40

50

図5は、背パッド310の他の例を示す模式図であり、図6は背パッド310の利用例を示す模式図である。

【0048】

図5に示すように、背パッド310は、チャック311A、チャック312、第1布部315A、面ファスナー315L、第1パッド部315Bおよび第2パッド部316を有する。

また、図5に示すように、第2パッド部316には、後述する独立ヒータ850が内側（図5の裏面、破線）に収納されている。なお、独立ヒータ850の電源ケーブルは、チャック311A側、背凭れ部300を介して基台部400に接続されている。

【0049】

次に、図5におけるチャック312および面ファスナー315Lは、矩形状で形成されている。また、第1布部315Aは布地からなり、第1パッド部315Bは、クッション性を有する素材からなる。クッション性を有する素材とは、例えば、ウレタン等である。

【0050】

また、図5に示す背パッド310は、図3と同様にチャック312を移動させるとともに、面ファスナー315Lを外すことにより、第1布部315A、第1パッド部315Bを全部外し、第2パッド部316を残して分離させることができる。

その結果、第1パッド部315を完全に取り外し、第2パッド部316を被施療者の前側、すなわち腹部側に配置させることができる。具体的に図6に示すように、第2パッド部316の下端部の独立ヒータ850を交差させることができ、被施療者の腹部を確実に温めることができる。

【0051】

図7は、背パッド310の他の例を示す模式図である。

図7に示すように、背パッド310は、チャック312、第1パッド部315および第2パッド部316を有する。

【0052】

図7におけるチャック312は、逆V字形状で形成されている。その結果、第1パッド部315は、三角形状で形成され、第2パッド部316は矩形状から三角形状を除いた形状で形成される。

【0053】

図7に示す背パッド310は、図3と同様にチャック312を移動させることにより、第1パッド部315および第2パッド部316を全部、または一部を残して分離させることができる。

その結果、第1パッド部315は、被施療者の背中側に配置させることができ、第2パッド部316は、被施療者の前側、すなわち腹部側に配置させることができる。

【0054】

図8は、背パッド310のさらに他の例を示す模式図である。

図8に示すように、背パッド310は、チャック312、第1パッド部315および第2パッド部316を有する。

【0055】

図8におけるチャック312は、楕円形状に形成されている。その結果、第1パッド部315は、楕円形状で形成され、第2パッド部316は矩形状から楕円形状を除いた形状で形成される。

【0056】

図8に示す背パッド310は、図3と同様にチャック312を移動させることにより、第1パッド部315および第2パッド部316を分離させることができる。

その結果、第1パッド部315は、被施療者の背中側に配置させることができ、第2パッド部316は、被施療者の前側、すなわち腹部側に配置させることができる。

【0057】

図9は、背パッド310のさらに他の例を示す模式図であり、図10は図9の背パッド

10

20

30

40

50

310を被施療者に利用した状態の一例を示す模式図である。

【0058】

図9に示すように、背パッド310は、チャック312、第1パッド部315および第2パッド部316を有する。

また、図9に示す第2パッド部316に、独立ヒータ850を収納可能なヒータ用袋318が形成されている。

なお、図9においては、第2パッド部316の表面にヒータ用袋318を設けているが、第1パッド部315に設けてもよく、第2パッド部316の裏面にヒータ用袋318を設けてもよく、第2パッド部316の表面または裏面に独立ヒータ850を固定収容させてもよい。

10

【0059】

図9におけるチャック312は、二等辺三角形形状に形成されている。その結果、第1パッド部315は、二等辺三角形形状で形成され、第2パッド部316は矩形形状から二等辺三角形形状を除いた形状で形成される。

【0060】

図9に示す背パッド310は、図3と同様にチャック312を移動させることにより、第1パッド部315および第2パッド部316を全部または一部を残して分離させることができる。

その結果、第1パッド部315は、被施療者の背中側に配置させることができ、第2パッド部316は、被施療者の前側、すなわち腹部側に配置させることができる。

20

特に、図9に示す背パッド310は、座部200および背凭れ部300の長さよりも長い背パッド310からなるので、図10に示すように、被施療者の膝上まで覆い被せることができる。その結果、椅子式マッサージ機100を用いる被施療者が女性の場合であっても、別途毛布などを膝に掛ける必要がなくなる。

【0061】

また、上記の実施の形態においては、ヒータ用袋318に、それぞれ独立ヒータ850を収納することができるので、被施療者の好みに応じて独立ヒータ850を収納させて、被施療者が温めたいところを自由に温めることができる。

【0062】

さらに、図9においてのみ、ヒータ用袋318を設けることとしているが、これに限定されず、図3乃至図8の背パッド310に、ヒータ用袋318を任意の位置に設けてもよい。

30

なお、本実施の形態においては、ヒータ用袋318を設けることとしているが、これに限定されず、面ファスナー（マジックテープ：登録商標）、ボタン等、他の任意の離合可能な構造を用いてもよい。

その結果、独立ヒータ850を背パッド310のあらゆる位置に自由に設けることができる。

【0063】

（独立ヒータ）

図11は、独立ヒータ850およびケーブル851の一例を示す模式図である。

40

【0064】

図1に示したように、本実施の形態においては、椅子式マッサージ機100の基台部400からケーブル851を介して独立ヒータ850が形成されている。

また、本実施の形態においては、独立ヒータ850を2個設けることとしているが、これに限定されず、1個、3個、4個等他の任意の数の独立ヒータ850を設けてもよい。

【0065】

図11に示すように、独立ヒータ850は、矩形形状のシート部材で構成されたヒータ本体853と、ヒータ本体853に電力を供給するケーブル851と、ヒータ本体853およびケーブル851を保護する保護部材857と、からなる。

【0066】

50

なお、図 11 の保護部材 857 の一部に、係止部 856 を設けてもよい。なお、係止部 856 は、図 9 のヒータ用袋 318 が設けられている場合には、設けなくてもよい。

なお、係止部 856 を例示したが、これに限定されず、面ファスナー、ボタン等、他の任意の離合可能な構造であってもよい。

また、係止部 856 が面ファスナーの場合には、背パッド 310 の自由な位置に取り付けることができる。

【0067】

保護部材 857 は、機械的な強度を有するとともに、汚れ難い素材からなる。例えば、塩化ビニール樹脂（以下 P V C と表記）および不織布等を有する複数構造の素材からなる。

10

【0068】

また、ヒータ本体 853 は、金属を主成分とするシート部材 854 に、ヒータ線 855 を蛇行配設させたものである。当該金属は、熱伝導率が高いアルミニウム等からなることが好ましい。

また、ヒータ線 855 からの熱を全体に拡散する拡散シート（図示省略）を内蔵してもよい。

【0069】

なお、本実施の形態においては、独立ヒータ 850 の制御部は、椅子式マッサージ機 100 本体の基台部 400 に内蔵されているとしているが、これに限定されず、独立ヒータ 850 個々に制御部を設けてもよい。

20

また、独立ヒータ 850 にセンサを内蔵してもよい。その結果、ユーザは、操作部 700 を操作することにより、独立ヒータ 850 個々の温度制御を確実に行うことができる。

【0070】

続いて、ケーブル 851 は、基台部 400 に設けられた巻き取り装置 410 により巻き取り可能に形成されている。

なお、本実施の形態においては、ヒータ線 855 を蛇行配設させたものを例示したが、これに限定されず、面ヒータ等、その他の任意の発熱源を用いてもよい。

【0071】

次に、図 12 は、独立ヒータ 850 およびケーブル 851 の他の例を示す模式図である。

30

【0072】

図 12 については、図 11 と異なる点についてのみ説明を行う。図 12 に示す独立ヒータ 850 は、図 11 の独立ヒータ 850 と同じものからなる。図 11 においては、巻き取り装置 410 を用いているが、図 12 においては、伸縮可能な形状のケーブル 852 を設けている。

ケーブル 852 は、ケーブル 851 が巻回された形状からなる。その結果、ケーブルの長さを伸縮自在にすることができる。

【0073】

また、図 13 は、独立ヒータ 850 およびケーブル 851 の他の例を示す模式図である。

40

【0074】

図 13 については、図 11 および図 12 と異なる点についてのみ説明を行う。

図 13 に示す独立ヒータ 850 は、袋 859 に収納される。当該袋 859 は、クッション性を有することが好ましい。それにより、自由に被施療者の希望する場所に独立ヒータ 850 を配置することができる。

【0075】

以上のように、背パッド 310 の分割構造の形状について、円形、矩形、楕円形、逆 U 字型、逆 V 字型を例示したが、これに限定されず、一対の施療子 350 の移動する範囲と、移動しない範囲で分割させてもよい。その結果、揉み心地を強くしたい場合には、背パッド 310 から第 1 パッド部 315（第 1 布地 315 A、第 1 パッド部 315 B を含む。

50

)を分割することで、被施療者と一对の施療子350との距離を短くすることができる。

【0076】

また、背パッド310は、係止部311により取り外しが可能であることとしているが、これに限定されず、背パッド310の上端部が背凭れ部300の上端に固定されていてもよい。

【0077】

さらに、独立ヒータ850は、PTCヒータ、PTC特性を持つフィルムヒータ、PTC特性を持つリボンヒータ、携帯型ヒータ等、任意のヒータを用いてもよい。

【0078】

以上のように、基台部400からケーブル851を介して独立配設された1または複数の独立ヒータ850を自由自在に配置することができる。その結果、ユーザの嗜好に合わせて独立ヒータ850を配置させることができる。

10

【0079】

また、背パッド310のヒータ用袋318に独立ヒータ850を収納することができる。さらに、背パッド310の係止部に独立ヒータ850を係り止めしてもよいので、背パッド310全面のいずれの位置においても独立ヒータ850を配置させることができる。その結果、独立ヒータ850をユーザの嗜好位置に配置させることができる。

また、座部200または基台部400の内部に巻き取り装置410が形成されているので、ケーブル851を容易に巻き取ることができる。

【0080】

20

また、ケーブル852の場合、ケーブル851自体の長さを変化可能な形状または素材からなるので、ケーブル851の絡まりなどを防止することができる。その結果、ケーブル851の長さを容易に変化させることができ、独立ヒータ850の利用を容易に行うことができる。

【0081】

また、操作部700により1または複数の独立ヒータ850の個々の温度を制御することができる。その結果、ユーザの嗜好に応じた温度調整を行うことができる。

【0082】

また、背パッド310の一端は、背凭れ部300の背凭れ材320の上部に係止される。また、背パッド310の一部には、分割構造が形成される。その結果、分割構造によりヒートパッド作用の部分と、背パッド310作用の部分とに分割でき、背パッド310と別にヒートパッドを設ける必要がない。また、ユーザの背中と施療子350からの距離を背パッド310のみにすることができ、施療子350によるマッサージ効果を高めることができる。また、コスト削減も実現することができる。

30

【0083】

また、背パッド310は、独立ヒータ850を内蔵しているので、ヒートパッド作用を、分割構造により、ユーザの嗜好に応じてユーザの背中側または腹部側のいずれか一方、または両方に配置させることができる。

【0084】

背パッド310の分割構造の形状が、円形、楕円形、逆U字型、逆V字型のいずれかで構成されるため、ユーザが、円形または楕円形から頭部を出すことができ、ユーザの腹部に背パッドを配置させることができる。

40

また、図9に示した背パッド310は、背凭れ部300および座部200の長さ以上で形成されるので、ユーザの膝近くまで背パッド310部の一部を分割させて被せることができる。その結果、ユーザがスカート等を着ていた場合でも、膝近くまで被せることができる。

【0085】

(実施形態における各部と請求項の各構成要素との対応関係)

本発明において、椅子式マッサージ機100が、「椅子式マッサージ機」に相当し、座部200が「座部」に相当し、背凭れ部300が「背もたれ部」に相当し、ケーブル85

50

1が「ケーブル」に相当し、独立ヒータ850が「1または複数のヒータ、面状ヒータ」に相当し、背パッド310が「背パッド」に相当し、ヒータ用袋318が「収納部」に相当し、巻き取り装置410が「巻き取り部」に相当し、ケーブル852が「ケーブル自体の長さを変化可能な形状または素材」に相当し、操作部700が「温度制御部」に相当し、背パッド310、チャック312、第1パッド部315、第2パッド部316が「分割構造」に相当する。

【0086】

本発明の好ましい一実施の形態は上記の通りであるが、本発明はそれだけに制限されない。本発明の精神と範囲から逸脱することのない様々な実施形態が他になされることは理解されよう。さらに、本実施形態において、本発明の構成による作用および効果を述べて

10

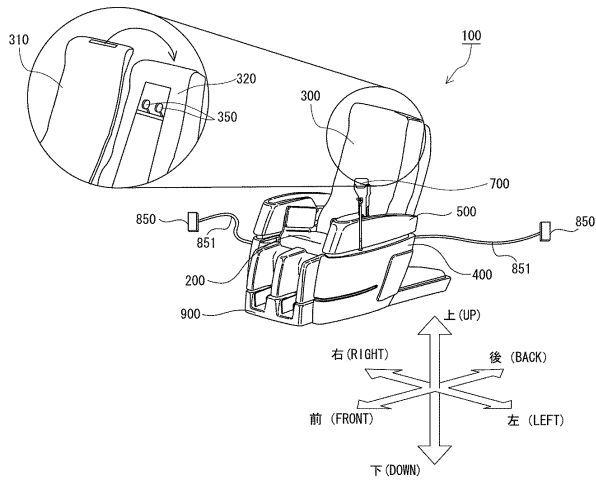
【符号の説明】

【0087】

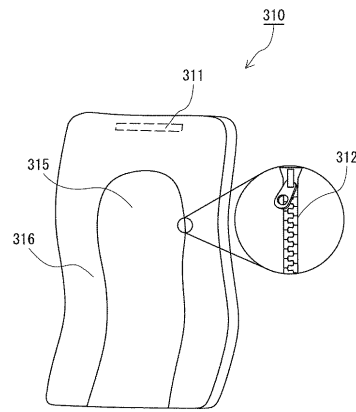
100 椅子式マッサージ機
200 座部
300 背凭れ部
310 背パッド
312 チャック
315 第1パッド部
316 第2パッド部
318 ヒータ用袋
410 巻き取り装置
700 操作部
850 独立ヒータ
851 ケーブル
852 ケーブル

20

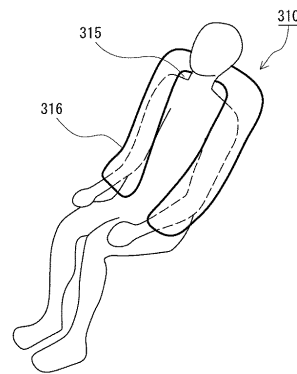
【図 1】



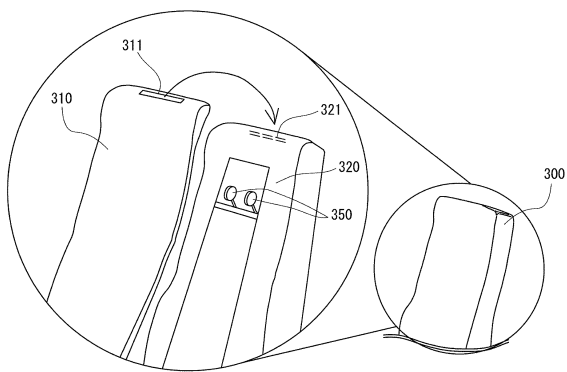
【図 3】



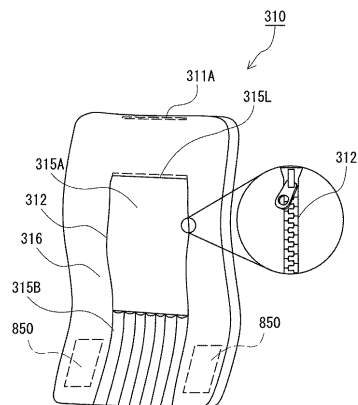
【図 4】



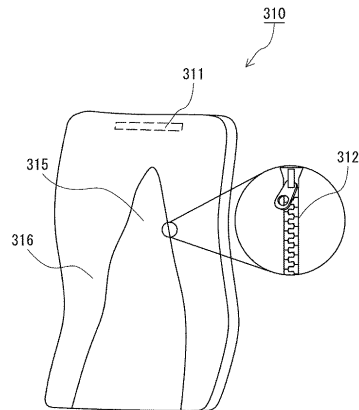
【図 2】



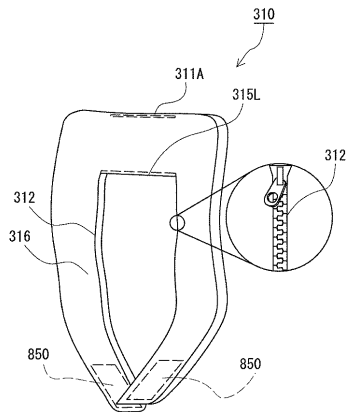
【図 5】



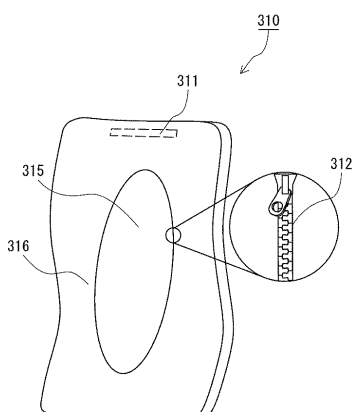
【図 7】



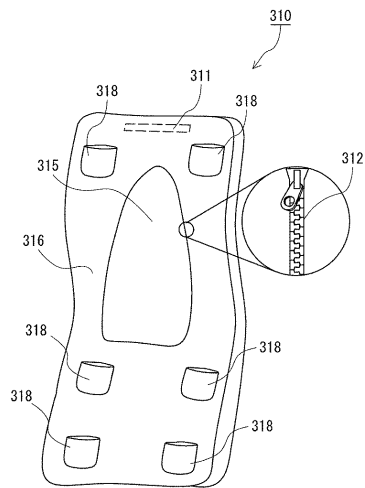
【図 6】



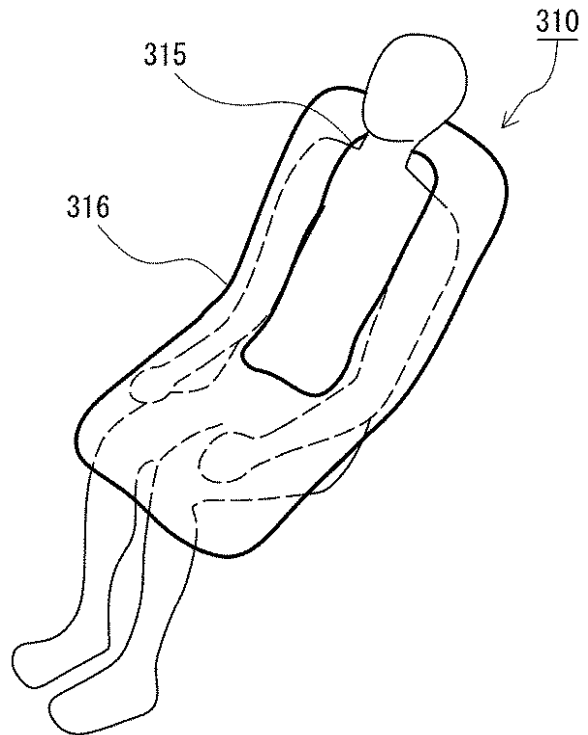
【図 8】



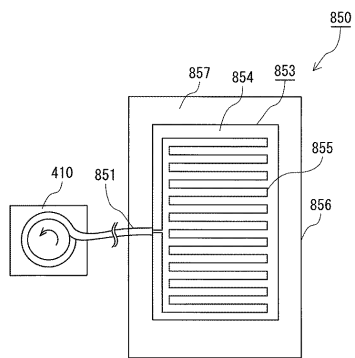
【図 9】



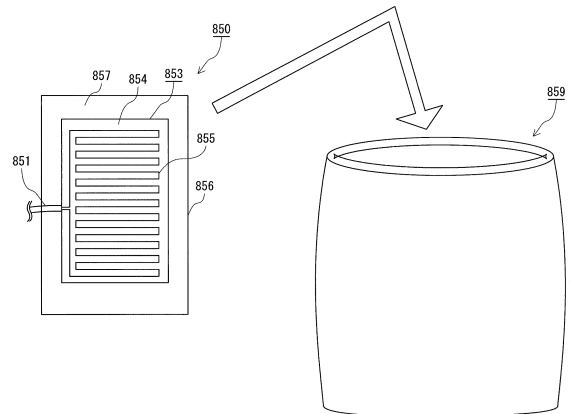
【図 10】



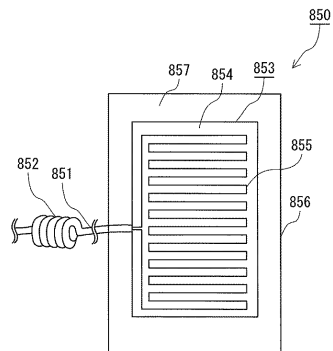
【図 11】



【図 13】



【図 12】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
A 6 1 F 7/08 3 6 1 L

審査官 和田 将彦

(56)参考文献 特開2007-312857 (JP, A)
特開平10-263034 (JP, A)
米国特許第07506927 (US, B1)
特開2006-320630 (JP, A)
実開昭55-116559 (JP, U)
登録実用新案第3144783 (JP, U)
韓国公開特許第10-2011-0053029 (KR, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A 6 1 H 7/00
A 6 1 F 7/03
A 6 1 F 7/08
A 6 1 H 15/00